

【ポスター発表】

スクールソーシャルワーク実践の類型に関する実証的研究

—スクールソーシャルワーカーへのインタビュー調査から—

○ 島根大学 山口 倫子 (会員番号 07094)

〔キーワード〕 スクールソーシャルワーク、スクールソーシャルワーカー、配置類型

1. 研究目的

研究の目的は、今後のスクールソーシャルワーカー（以下、SSWer とする）の効果的な活用の在り方を検討するために、SSWer の配置の類型が、子どもや保護者の支援のためのネットワークの形成と援助のプロセスに、また、どのような事例に対して有効かを明らかにすることである。この研究の意義は、これまでのスクールソーシャルワーク（以下、SSW とする）研究でなされていない SSWer の配置類型と援助要素との関係、あるいは事例との関係に着目した点である。

筆者が SSWer として活動する中で、「配置型」と「派遣型」では活動に違いがあり、学校側の認識にも差が出ていた。そこで、「SSWer の配置類型によりその活動や効果等に違いがある」という仮説を前提に、「配置型」・「派遣型」それぞれの SSWer へインタビューを行い、それらを明らかにしようとした。また、配置類型と扱う事例との関係を見ることで、SSWer の配置について新たな知見が得られる可能性があると考えた。

2. 研究の視点および方法

本研究はインタビューガイドを作成し、それに基づき SSWer 経験者でかつ現任の SSWer4 名に対し半構造化インタビューを行った。インタビュー期間は 2015 年 6 月～8 月である。1 回のインタビュー時間は約 65 分であった。インタビューでは、配置型・派遣型それぞれの立場から SSWer として今まで扱った問題・事例について、具体的な支援内容も含めて可能な範囲で話していただいた。

なお、インタビューは、調査協力者の了解を得たうえで IC レコーダーを用いて録音し、その音声データを基に逐語記録を作成している。分析方法は定性的（質的）コーディングで、本研究では逐語記録を分析対象とした。まず、インタビューから得られたデータ（逐語記録）から意味内容ごとに「コード」を割り出し、次に一般化を図るために「コード」間の関係性を比較検討しながら「カテゴリ」を生成した。そして、「カテゴリ」を「説明図式（理論）」へと統合した。この手続きを何度か繰り返し行い検討した。

3. 倫理的配慮

本研究を行うに当たり、調査協力者に対してインタビューに関する説明書と同意書を提示した上で口頭説明を行い、話したくないことは話さなくて良いこと、インタビューはいつでも中止できることを前提に書面にて調査協力の同意を得た。また個人が特定されるデータについては匿名化し、研究データは厳重に管理した。なお、本研究は、前任校の研究倫理審査委員会及び島根大学人間科学部における「人を対象とする研究倫理審査委員会」の承認を得て実施している。

4. 研究結果

分析の結果、SSWerの活動には「SSWerの配置類型による活動の違い」と「SSWに共通する事柄」があることが明らかとなった。「SSWerの配置類型による活動の違い」は、【派遣型の動き方】【配置型の動き方】の2つのカテゴリから構成されている。【派遣型の動き方】は「情報収集」「他機関の情報」「間接支援」「黒子」「派遣型の良さ」の5つのコード、【配置型の動き方】は「配置型の特徴」「配置型SSWerの意識」「配置型のやりにくさ」の3つのコードから生成されている。また、「SSWに共通する事柄」は、【SSWの活動内容】【教育委員会との連携】【SSWerの存在意義】【SSWerの周知】の4つのカテゴリから構成されている。【SSWの活動内容】は「交通整理」「アセスメント」「校内巡回」「事前準備」の4つのコード、【教育委員会との連携】は「教育委員会との協力」「教育委員会のビジョン」「アセスメントシートの活用」「教育委員会と一緒に動く」の4つのコード、【SSWerの存在意義】は「SSWerの本音」「SSWerの立ち位置」「SSWerの視点」「子どもの思い・願いに寄り添う」「教師の気持ちに寄り添う」の5つのコード、【SSWerの周知】は「子どもへの周知」「研修による周知」の2つのコードからそれぞれ生成された。なお紙面の都合上、逐語記録に基づくコードの説明は割愛させていただく。

5. 考察

上記よりSSWerの配置型と派遣型の違いが明らかとなった。「派遣は明確にケースがあがってくるので動きやすい」に対して、「配置はこのケースはどうでしょう？から始まり交通整理は必須」「派遣ではあくまでも間接支援」等である。共通項は「ケース会議を進める上での事前準備」「先生と違う人間が学校に入る意味」「SSWerの視点」「先生方が持ち合わせていないところ」等であった。「派遣型の方が動き易いが、本来のソーシャルワークというところにおいてはずっとクエッション」という発言は、派遣型では十分なソーシャルワーク実践ができずジレンマを抱えていることがわかる。SSWの目的に未然防止があることから、筆者はやはりSSWerの配置型（拠点校も含む）が望ましいと考える。

本研究の限界はインタビュー対象者が少なく地域も限定されている点、また今回配置類型と扱う事例との関係までは明らかにできなかったのも、それは今後の課題である。